

学生の就職活動に向けた地域建設業からの発信

小野組 正会員 ○小野 貴史
小野組 大沼 雅文

1. はじめに

学生の新規採用に当たっては、コロナ禍ということもあり対面による接点が少なくなっている。このような時期だからこそ、学生との交流の場が必要であると強く感じている。一方、合同企業説明会では、ネームバリューのある規模の大きな企業を中心に学生が集まる傾向にあり、地域建設業との接点がなかなか持てない状況である。そこで、地域建設業の特徴を生かすためには、大手リクルートサイトの合同企業説明会に頼らずに独自のイベントを企画するに至った。

2. 課題解決の背景と目的

キャリアス就活の調査結果¹⁾によると、就職活動開始は年々早期化している(図-1)。多くの学生も就職活動開始時期や企業選びに苦心している。また、(株)リクルート就職みらい研究所の調査結果²⁾によると、コロナ禍によるオンライン化が進み、内定時期も早くなっている(図-2)。しかし、せっかく採用した人材が、就職後にミスマッチが原因で早期退職をすることが起きている。就職活動は、入社することが目的になっており、入社後のキャリアを学生がイメージできていないこともモチベーション向上につながらない要因となっている。

さらに、学生アンケート結果³⁾によると、働きたい組織とは、若く新しい企業よりも『歴史や伝統があり、安定性や確実性を重んじる』企業であった。また『入社直後の給与は低くても長く勤めて自分のキャリア形成した後々高い給与を重視している』という傾向であった。

このアンケートから察すると、地域建設業は十分に学生たちの対象になりうる企業であると考えられる。すなわち、ベストマッチングの一方の当事者になれるはずである。そこで人材教育に力を注ぎながら地元で愛されている100年企業である博進堂(印刷会社)や菊水酒造(酒造)、藤田金属(商社)、小野組(建設業)との異業種4社によるコラボワークショップを企画した。

3. コラボワークショップ企画内容

ワークショップの目的は、学生と企業の若手従業員が働く意味や目的について共に考えを深めることである。ワークショップを通して、学生には働く意味や仕事の意義に気づいてもらい、企業選びの新たな視点を持ってもらうことである。さらに、それぞれの今後のキャリアパスをイメージしてもらうことであった。働くことが長い人生においてどのような意味を持ち役割を果たすかについて考え、このワークショップが単なる就職のためのイベントではなく、豊かな人生を過ごすための導入部になればと考えた。参加人数は、学生20名および1～5年目の若手従業員8名であった。会場は新潟市中央区長潟にある森の教育実修所「点塾」とした。ワークショップの内容は、次のとおりである。

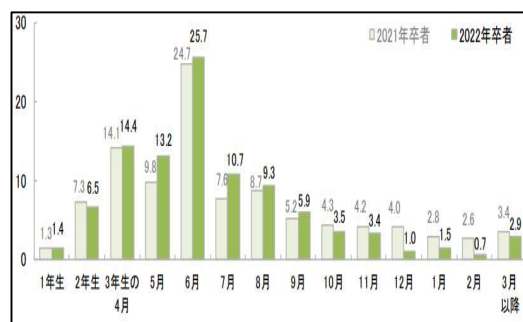


図-1 就職活動開始時期¹⁾

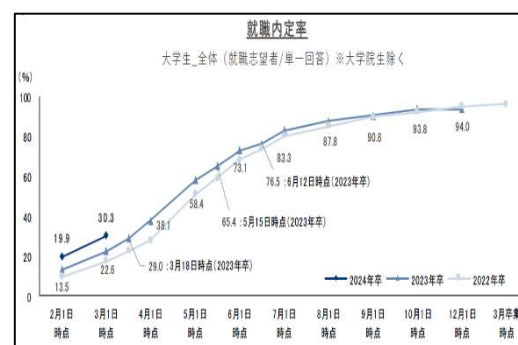


図-2 就職内定率²⁾

キーワード 地域建設業 就職活動の早期化 キャリア形成 伴奏型支援
連絡先 〒959-2646 新潟県胎内市西栄町 2 番 23 号
(株)小野組 TEL 0254-43-2123

- ① 新潟県内の大学のキャリアセンターの講師を招き、『幸せに働く』に関する講話（図－3）
- ② ワールドカフェとして、1グループ4人（若手社員1人＋学生3人）による『私が働くモチベーション』をテーマに学生が若手社員を取材。（図－4）

4. 成果

ワークショップを通して次のような成果が得られた。「モチベーションについて新たな気づきが得られた／6名」、「答えは一つではないことに気づいた／4名」、「多様な立場の人と話ができて新鮮で楽しかった／10名」、「多様な価値観や考え方があることに気づき、新たな発見、学びを得た／8名」、「『好き』、『やりたいこと』と『仕事』が結びつく気づきと喜びを実感／4名」、「『働く』ということを実感に知った／5名」、「自分自身の発言力や人との接し方について気づきがあった／8名」

以上のことから、多様な価値観や考え方に気づき学び、「働く」リアルと「モチベーション」に新発見があったことがわかった。よって、本格的な就職活動前に、このような自分自身の気づきや発見をし、他業種の若手社員と交流できる場・機会は、とても有効であるということが明らかになった。さらに、若手社員は学生とワークショップを行うことで「初心に返ることができた」、「自分のモチベーションが見えた」などといった気づきがあり、学生だけでなく若手社員にとっても有意義な場であったこともわかった。

今回の企画は、単なる採用活動ではない。学生の気づきの場の提供であった。学生は、これを一つのきっかけとして視野を広く持ち、その上で自分の進みたい方向を深掘し業界・企業研究をしてほしいと願っている。

5. まとめ

就職売り手市場にあり、少子化により早期内定者確保のため採用直結型のインターンシップの傾向が強い状況にあり、参加した学生を囲い込みする企業が多い。ワークショップを通して、学生にとってみれば採用直結型でなく、もっと幅広く多くの企業とふれあいたいと思っているように感じられた。その視点から、今後も多くの企業との交流の場を学生に提供していきたいと考える。

時代の変化が急速に進み、就職活動も激動化している。学生はその流れに乗ろうと必死であるが、受け入れ側の企業人として、我々は学生との対話を大切にして、伴奏型支援をしていきたいと考える。

【参考文献】

- 1) キャリタス就活 2022 学生モニター調査(2020年12月発行)
https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2020/12/202012_gakuseichosa_k.pdf
- 2) (株)リクルート就職みらい研究所『就職プロセス調査 2024 卒』
https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/2023/0309_12104.html
- 3) (株)リクルート就職みらい研究所『大学生の働きたい組織の特徴 2023 卒』
https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/assets/20230209_hr_01.pdf



図－3 講話の様子



図－4 ワールドカフェの風景